

(7) 国際交流推進センター**① 国際交流推進センター****ア 設置の趣旨（目的）及び組織**

国際交流推進センターは、本学の特色を生かし、国際的な学生交流及び学術交流の推進並びに教育研究の充実を図るとともに、学校及び地域社会等との連携により、国際的な視野を持った人材を養成することを目的として設置されている。

本センターは、センター長、センター教員、兼務教員及び協定校アドバイザーにより構成されている。

本センターの運営に関する重要事項を審議するための国際交流推進センター運営委員会及び本推進センターの業務を遂行するための部会が設置されている。部会は、2部会を設置し、協定校交流推進専門部会は協定校との交流推進等、留学生支援専門部会は留学生の修学及び生活上の指導等を担当している。

イ 運営・活動の状況

令和元年度における本センターの主な運営・活動状況は、以下のとおりである。

- i) 交流協定校からの訪問団の受入れを行った。（6月：国立嘉義大学，7月：韓国教員大学校，9月：ウェストミンスター・スクール）
- ii) 海外との研究交流事業を実施（本学教員の派遣1人（ドイツ））し、研究交流や講演を行った他、交流協定についても協議を行った。
- iii) 「外国につながる子どもたち」への修学支援事業を実施した。（参加本学学生28人，参加児童生徒23人（※通常支援参加学生人数））
- iv) 37人の外国人留学生を受入れ（令和元年10月1日現在），日本語補講をはじめ，日本文化研修（行き先：上越市内），留学生スキーのつどい（1泊2日，場所：安塚キューピットバレイスキー場）などを実施した。
- v) 海外教育（特別）（実践）研究D，E（台湾：参加学生数9人）において現地での英語による授業実践の準備を行った。3月には現地研修を行う予定だったが，新型コロナウイルス感染症の拡大により，渡航が中止となったため，令和2年度に改めて現地研修を実施することとした。
- vi) 短期海外研修プログラム（台湾：参加学生6人）を計画し，現地で協定校附属学校の授業見学や学生交流，文化研修等を行うためガイダンス等を行ったが，新型コロナウイルス感染症の拡大により，渡航が中止となった。
- vii) 国際交流ファシリテーター養成事業を実施し，ワークショップにおいて地域の学校における国際理解教育に貢献した。
- viii) 語学講座，留学生が語る／留学生と語る会を実施し，留学生と日本人学生及び地域住民が交流した。
- ix) 国際理解教育派遣プロジェクトにより，留学生を上越地域の学校等に派遣し，学生の異文化理解に貢献した。

ウ 優れた点及び今後の検討課題等

令和元年度において，外国人留学生の積極的な受入れにより，令和元年10月1日現在で37人を受け入れた。

留学生関係行事について，上越市地方創生推進事業補助金を獲得し，これにより上越地域のスキー場において留学生スキーのつどいを実施した。

② 運営委員会

ア 設置の趣旨（目的）及び組織

i) 組織設置の趣旨（目的）

国際交流推進センター運営委員会は、本センターの運営及び業務の推進並びに本センターの事業計画に関する事項等を審議することを目的としている。

ii) 組織の構成及び構成員等

運営委員会は、センター長、センター教員、兼務教員及びその他学系又は専攻・コース等から学長が指名した者 16 人で構成されている。

また、運営委員会の下に、協定校交流推進専門部会及び留学生支援専門部会の 2 専門部会が置かれている。

イ 運営・活動の状況

i) 委員会等の開催状況

令和元年度において、運営委員会は 4 回開催するとともに、書面審議を 7 回行った。また、協定校交流推進専門部会を 4 回開催し、留学生支援専門部会を 2 回開催した。

ii) 審議された主な事項

令和元年度において審議された主な事項は、①国際交流事業計画、②外国人留学生の受入れ、③協定校の受入れ、④海外との研究交流事業計画、⑤国際交流ファシリテーター事業、⑥外国につながる子どもたちへの修学支援事業、⑦年度計画に関する自己点検・評価等である。

iii) 重点的に取り組んだ課題や改善事項及び前年度の検討課題への取組状況等

本センターは、国際戦略及び国際交流に係る基本方針を定め、この中で「異文化コミュニケーション能力と異文化理解マインドを持った教員養成の一層の充実」及び「学校教育とその教育者養成に関する国際レベルでの研究推進の拡充」を重点目標とし、各種事業に取り組んでいる。

令和元年度においては、①協定校（国立嘉義大学（台湾）、韓国教員大学校（韓国）、ウェストミンスター・スクール（オーストラリア））からの訪問団の受入れ、②外国人留学生の積極的な受入れにより令和元年 10 月 1 日現在で 37 人の受入れ、③国際交流ファシリテーター養成事業の充実を図り、大学院学生 14 人の参加の下、上・中越地域の小・中学校などで 10 回のワークショップを実施、④「外国につながる子どもたち」への修学支援、などにより、国際交流の充実、外国人留学生の受入れの促進、グローバル化への対応、外国人留学生と日本人学生及び地域住民との交流の充実を図った。